



（）挨拶 支部長 小池 健一（67期）

上田高等学校同窓会  
中南信支部会報

発行  
上田高等学校同窓会  
中南信支部事務局  
題字  
(故)松岡翠風(仁太郎)氏  
(39期)  
安曇野市に居住し、  
全日展書法会副会長などを歴任された

昨年十一月に上田高校 同窓会中南信支部長を引き継ぎました小池です。卒業年度は六七期で、下形仁是幹事長と同期です。初代の小林茂昭支部長、第二代の菅谷昭支部長のもとで発展してきた中南信支部同窓会を皆様とともに盛り上げていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

現在、長野厚生連 南長野 医療センター篠ノ井総合病院の統括院長として勤務しています。この病院へ赴任して最も強く感じたのは、病院へ来る大部分の患者さんは高齢者であることでした。いくつもの病気を持っていたり、一〇種類以上、

時には二〇種類近い薬を内服していることも稀ではありません。高齢の患者さんが入院された時、どこまで治癒を目指す治療を行うべきか考えさせられることは患者さん優先すべきことは患者さん少なからずあります。最も優先すべきことは患者さん本人の考え方なので、須坂市で始めたリビング・ウイル（生前の意思表明書）はこれまでから真剣に取り組んでいます。こうした中で、八六歳で心臓の手術を受けた友人のお母さんが以前にも増して元気になつて生活をエンジョイしているとうかがつた時、手術をご本人ご家族に勧めて本当によかったです。

少子高齢化が一層進む中で、日本の社会構造が変わったところから良き伝統が壊れつつある昨今です。こうした時だからこそ、幅広い卒業年度の同窓生が集ま

る同窓会という場は非常に貴重です。中南信支部は、北は小谷、南は飯田という非常に広範囲に在住する五〇余名の会員からなる

います。支部の「会報」發行に加え、総会、新年会、そして毎月第一月曜日に開かれる月例会兼幹事会等、これだけ盛んに活動している支部はまず無いと思いま

す。特に、総会の懇親会では、学年毎に会員一人ひとりが近況を話す習わしはとても良いことだと思います。また、社会講座講師が受持つ授業は、母校の在学生が進路を選択・決定していく上で貴重であり、引き

## ～第24回支部総会のご案内～

### ■日時: 11月11日(土)

14:30 開場

15:00~15:45 第一部：総会

16:00~16:45 第二部：記念講演

17:00~18:45 第三部：懇親会

### ■会費: ¥7,000 (学生の方は¥3,000)

第一部のみ参加される方で、'17年度支部年会費

1,000円を納入された方は無料です。

返信葉書で出欠をお知らせください。

### ■会場: アルピコプラザ・ホテル 松本市 深志 1-3-21 電話 0263-36-5055

(旧名称: 松本東急 REI ホテル)

**記念講演 静岡大学名誉教授・ピアニスト・全日本ピアノ指導者協会名誉評議員 柳沢信芳氏 第67期 演奏とお話「人と音楽のかかわりについて」**



柳沢 信芳氏(67期)

明治期の開国から約150年経つた今日、日本における音楽について再考する時期を迎えているように思います。長年の演奏活動及び教育活動を通して考察してきたことをお話しします。またこの機会に、皆さんで「信濃の国」を歌うのもいかがでしょうか。

### 略歴

- ・上田高校2年の時、初リサイタル
- ・ウィーン国立音楽大学卒業
- ・帰国リサイタルに続き、ベートーヴェンピアノソナタ全曲演奏、新日本フィルとの共演等を行う
- ・1978年 静岡大学教育学部に赴任
- ・2015年 定年退職
- ・2017年 静岡大学特任教授





**深澤 昌美 (49期) 箕輪町**

無理するな

優しい言葉 背に受けて  
己に敗けじと 今日も靴履く

時期を見て  
若手へバトンと 言う妻の  
笑顔美わし 少しまぶしく

**中沢 住譽 (44期) 松本市**  
書は「一生の稽古なり」一昨年、高齢者展覧会書の部で松本市長賞をいただき、昨年は市会議長さんの賞をいただきました。暇を見て稽古しています。冒頭の格言は上條信山先生のものです。

**林 庄平 (52期) 下諏訪町**  
中南信支部を10年間に渡つてご指導下さった菅谷昭氏の退任に会員として心から感謝の意を表したいと思います。

**丸山 勝彦 (61期) 安曇野市**  
運転免許更新不可で白内障の手術を受け、何とか免許更新となりました。11人の孫のトップバッターが希望の大学へ合格しました。

**星野 伸男 (64期) 岡谷市**

一昨年から地区の役員を仰せつかり諏訪大社・地元の八幡社と御柱祭りのご奉仕に明け暮れた一年でした。

**清水 賢一郎 (83期) 駒ヶ根市**

伝統ある母校柔道班の部員がどうとうゼロになつてしましました。先日OB会で30年ぶりに柔道場に入りました。当時広く感した道場が小さく見えました。現在も柔道に携わる者として、柔道班復活のために何ができるのか考える毎日です。

## 会員短信拡大版

『中年オジンが大学院生になった話』

長坂文夫 (76期)

この4月に経営学の修士(MBA)を目指して大学院に入学した。米国 AACSBと、欧州のEQUISという認証に認定された教育機関でMBAの称号をもらえるわけだが、日本には認証を取得できた大学院は2校しかないので、選択は実に簡単である。授業料がお安い方にした。入試には通つたが、授業

は、毎回の下位30%が落第し、単位がもらえない。授業は土日なので、月金は会社に通つて、まずは授業料を稼いでからである。授業料は国産自動車の某社し印のクラスが貰える金額で、そんな大金を払つて落第するのも悪趣味であるし、自然と気合は入る。

もともと平日5日掛けて学ぶ中身を土日で学ぶことになるので、レポートの課題がやたらと厳しい。初回の土日には、60ページのレポートを2通課されたので、同級生の多くが徹夜になつたと言つていた。私も平日は朝4時半から出勤直前の7時半まで使って、3時間×5日でとにかく書いて出した。大学なので夏季休暇はあるが、夏休み前の最終授業の後の解放感と脱力感はひどかつた。この会報を諸兄姉が手にされる頃、また秋学期でレポートに追われていると思う。後日譚はいづれ。

## 第20回 SBC長野県高校OB対抗ゴルフ大会に参加して

久保田 信二 (61期)



2017年7月5日(水)空梅雨模様の今年の夏入り前 心地よい風とときよりの日差しのなかで第20回SBC長野県高校OB対抗ゴルフ大会が豊科カントリー倶楽部(安曇野市)で開催されました。

長野県下14高校OB28チーム112名が参加し 新ペリア方式 ノータッチのチーム対抗戦で競いました。

各高校とも「精銳のOBを派遣し覇を競う大会」と主催者は挨拶していましたが、趣旨の徹底には程遠く久しぶりの再会とあちこちで昔ながらの話題に花が咲く雰囲気の一日でした。

我高校OBは校風通りの精銳の8人の侍を派遣しました。(本年は予選なし)。以下の各氏です

Aチーム(写真後列) 堀内廣一(66期) 中山良一(66期) 小島昭英(66期) 馬場敏博(66期)

Bチーム(写真前列) 吉村哲郎(66期) 篠塚嗣雄(60期) 大口静雄(59期) 久保田信二(61期)

プレー中は他校OBとの対抗意識より同伴者対抗意識が勝り、食事中は昔の話でいつもの通りでした。

結果は総合団体順位でBチームが12位、Aチームが18位の敢闘に終わり、シニア対抗戦(60歳以上)では1.8ポイントの差でBチームが入賞(3位以内)を逃し、日頃の精進の足りなさと4人合わせても運の少なさを痛感しました。

吉報は最年長の大口静雄(59期)氏が総合ベストスコア(74)でダントツの栄えあるベストグロス賞に輝きました。

当大会の優勝チームは表彰時校歌を斉唱することになっており、来年に向けて大口さんのレッスンと校歌の練習をして望むつもりです。ご期待下さい。